

シエムリアップ MoiMoiライフ

ISSUE
65

「Moi Moi」とはクメール語で「ひとつずつ、ゆっくりと」の意味。恵み豊かなカンボジアでのスローライフをお届けします。



小出陽子 (Yoko KOIDE)
一級建築士。2000年、UNESCO 遺跡保存オ
フィス建設のため、カンボジアに赴任。2005
年シエムリアップにレストラン「Cafe Moi Moi」
をオープンする。現在は、建築設計とレストラ
ン経営のかたわら、JST (NGO、アンコール遺
跡の保全と周辺地域の持続的発展のための人
材養成支援機構) を運営し、農村地域の支援
活動を行っている。

MoiMoi Life in Siem Reap Even If I Become A Grandmother!

Established in 2005, "Café Moi Moi" restaurant envisions itself as where Cambodians can work proactively. A tumultuous first five years occurred: swine flu, bankrupt of businesses and Lehman Shock of 2008 devastated the tourism industries in Siem Reap.

I recall the hardship that I endured with all the staffs. The hardship that is comparable to "A small boat getting tossed around by the fierce ocean's wave". My utmost respect for the young female staffs is their sense of responsibility and endurance.

I truly believe the reason why they work hard is the financial responsibility that they have despite the young age. With this reflection, as the owner I cannot disappoint the many that depend on this shop. Thus, my desire for this shop is to have the staffs work continuously and to support their livelihood and to say "I still want to work even if I become a grandmother".

おばあちゃんになっても!?

カンボジア人自らが主体となって働けるレストランを目指し、2005年にオープンした「カフェモイモイ」。しかし最初の5年間はハラハラドキドキの連続でした。豚・

鳥インフルエンザ等の流行が報じられるたびに、アンコールの日本人観光客が激減することの繰り返し。開業間もないこともあり、不安定な日々を送っていました。そして、極めつけは2008年のリーマンショック。あのときは、シエムリアップ中の観光業界で一時休業や人員削減が相次ぎ、中には閉店に追い込まれた店もありました。

弊社でも、その苦しい時期をスタッフ全員で耐え忍んだことを思い出します。まさに「大海で翻弄される小舟」状態。しかし、それら大波小波を乗り越えるたびに、スタッフは逞しくなり、店の盤石化につながっていききました。何よりも感心するのは、若い彼女たちの責任感と体力。例えば観光シーズンには、朝3時の早朝から厨房に立って弁当をつくり、夜9時

の閉店時間まで働く日々も続くのですが、チーフが組んだローテーションをもとに、皆一丸となって協力しながら、店を切り盛りしているのです。

彼女たちが真摯に仕事に向かう理由はいろいろありますが、ひとつには、若いながらもそれぞれの家族を背負っている、ということがあると思います。中には、親と兄弟姉妹8人を、1人で養っているスタッフもいます。また、本人は小学1年生で退学して読み書きができないのですが、現在、弟は高校に通っているというケースもあります。このように、モイモイスタッフに沢山の家族が頼っているのです。こう考えると、オーナーである私もいい加減なことはできません。店を立ち上げたからには、如何なる荒波が押し寄せて来ようとも乗り越えていかなければ、と思っただけです。そして、「おばあちゃんになっても働きたい」と、スタッフが生き生きと働き続けられる場でもありたいと思います。